



むこうばるせきどう

## 向原石幢

鉄輪（白池地獄） 個人所有

県指定有形文化財（建造物）

昭和 49 年 3 月 19 日指定

白池地獄庭内に立つ重制石幢で、基礎・幢身・中台・龕部・笠からなる。笠上の宝珠部は欠失。総高 250cm。基礎は高さ 92cm の梯形方柱状。幢身は上部がやや細めの方柱状で、金剛界四仏の種子（ウン・タラク・キリーク・アク）を彫る。龕部には厚肉彫りの地藏像 6 軀を彫るが、この手法は福岡・佐賀方面に多く、本石幢も福岡県方面から流出したものという。大分県の場合、このように厚く彫るのは近世以降になってからである。

幢身のキリークの種子下両端に刻銘があるが、「于時永祿十一白<sub>戌</sub> <1568> 仲陽」「 庚申各々 結衆敬白」とわずかに読めるのみ。「白」は年、「仲陽」は 2 月のこと。庚申信仰に係のある塔と思われる。

（小泊 立矢）